

令和4年度生野区区政会議(第1回まちの未来部会)  
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和4年6月2日(木)

場所:生野区役所6階 大会議室

ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>ものづくり、中小企業のまち、銭湯の文化と生野区が先陣を切って広がってきたが、いまは廃れてきた。ものづくり工場などで面白いところをPRして、伝統が途絶えないように上手くアプローチして歴史をつないでいくことが必要。</p> <p>民間のアクションが増えるといい。区は大きな視点で取り組んでいるので、まちに住んでいる人たちがまちを一番理解しているし、まちの魅力を引き出せて、まちが変わると思う。</p>	<p>ものづくり、中小企業のまちであることについては、「ものづくり百景」のPRを、オンデマンドバスのキャッチボールイベントなどイベントの折に実施しております。今後も、折を見つけてPRに努めるとともに、デジタルブック版の活用や様々な団体との連携を通じて広報機会の拡大に努めるなど、これまで以上に周知方法の拡充に努めてまいります。</p>
<p>事業所は跡継ぎがなく、古くからやっているのでカッコよさがはないが、残すべきところは残して、アップデートすべきところはアップデートして伝統を紡ぐというところを最優先に置いたとき、県外の人たちに面白いまちだよっていうPRをしていくべきだと思う。</p>	<p>「ものづくり百景」デジタルブック版を活用するなど、ものづくりのまち生野の魅力を広く周知・啓発に努めてまいります。</p>
<p>生野区には非営利活動団体がたくさんある。そうした団体と工業をつないでもらって、コラボで何かをするために、区には間を取り持って欲しい。ものづくりのさらにもう一つ上に進む何か面白いものができると思う。</p>	<p>当区では、持続可能なまちづくり活動支援事業として、課題解決のため企業・NPO・市民団体などが取り組まれるまちづくり活動を支援してまいりましたが、今後はそういった活動主体の広報を通じて連携を促し、相談があった際には適切に連携が進むように努めてまいります。</p>
<p>多世代教育や多世代交流、共に学ぶ教育といったコンセプトでアンテナ的な場所を作って、生野区だけじゃなく、いろんな地域から人が集まって、その人たちと生野区を俯瞰で見て、面白い部分にアプローチできたらいいと思う。</p>	<p>区内で活動するさまざまな団体活動と連携協力しながら、「生野の魅力」を伝え、人が集まり、にぎわいを創出するような取組を今後も続けて実施してまいります。</p>
<p>不動産の所有者が三世代くらい経っていて、生野に住んでいないことや貸すのにお金がかかるから難しいなど、自分の中にハードルがあって、使いたい人になかなかバトンが渡せないという状況にある。</p>	<p>不動産所有者の方々への空き家・空きスペースの活用について、当区の取り組みを広報し、適宜相談にのるなど利活用の促進に努めてまいります。</p>
<p>空き家や空き店舗は、貸す側は4~5万円で貸すが、借りる側は3万円なら借りる。でもそこまで安いと貸さないってなる。だから空き店舗がたくさんある。</p> <p>空き家問題は、政府の税制の問題である。更地にしたら税金が高くなって、空き家のままなら税金がかからないのがおかしい。だから空き家のままになる。</p>	<p>公民連携により、これまでも空き家の利活用についての取り組みを進めてきましたが、貸す側つまり所有者の方々との借り手を繋ぐ方策について今後も検討を進め、施策を進めてまいります。</p>

ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>土地の価値よりも解体費用の方が高いからほったらかしなる。政府や大阪市が買い取るなどすればいい。</p>	<p>空家については本来所有者等が適切な維持・管理をする責任を負っているものでありますため、公費による買い取りをすることは、適正に解体するなど管理されている所有者との不公平感の観点からも現状難しいものと考えております。 また、空家の解体補助制度がございますので、区役所にご相談いただければと考えております。</p>
<p>近所のお年寄りは、オンデマンドバスの使い方もわからない。何なのかもわからないという人もいます。そうした声をどういう風に反映してどう評価しているのか。 ちゃんと基準を設けて、こういうことがあって、使い勝手が良くてみんなにどれだけ浸透しているかというところまで評価しないとイケない。</p>	<p>オンデマンドバスの活用方法については、地域のスマホ教室などを通じて啓発に努めておりますが、その中でいただいた声や使用頻度などを踏まえてオンデマンドバスの社会実験の実施主体である大阪メトロと連携して、理解度促進に努めてまいります。</p>
<p>オンデマンドバスのことを、各種団体の人は知っているが、周りの一般の方にまで、広まっていない。 オンデマンドバスを上本町まで延ばすと利用すると思う。 生野区の南北や東西での交流がないと浸透しないと思う。生野区のことを勉強しようみたいな区民レクリエーションやまち歩きなどの企画があれば東西南北で交流が広がって、オンデマンドバスの利用も広がると思う。</p>	<p>区域外への運行エリアの拡大については、大阪メトロに要望いたします。また、ご指摘いただいたオンデマンドバスの利用を前提とした企画についても、大阪メトロと連携し、検討してまいります。</p>
<p>オンデマンドバスは、スマホを使いこなす若者の利用は増えるだろう。ただ、停留所を増やす必要がある。また、朝夕の通勤通学の時間帯に2・3台しかオンデマンドバスは走っていないので、使いにくい時間帯があり、それでは使えない。</p>	<p>区の方に寄せられた乗降場所の追加の提案は、大阪メトロに要望いたします。また、予約が取りにくい時間帯の改善につきましても大阪メトロに要望してまいります。</p>
<p>オンデマンドバスは、クールで賢いけれども面白味がない。バスを動物の形にするとか停留所の色をもっとわかりやすい色にするとか、ストーリーのようなものが必要で、それなしにテクノロジーを持ち込んでも上手くいかない。</p>	<p>いただいたご提案を大阪メトロにお伝えいたします。</p>
<p>疎開道路や御幸森商店街などは新しいお店ができるが、経営だけで住んでいないので、地元の人たちとの接点が作りにくく、町会費を払わないといった問題も聞く。また、地元のいろんなイベントや夏祭りにも関わってこない。他にも、疎開道路にあるニューカマーのお店のごみ問題もある。人が来てにぎわっていて、未来につながっているように見えるが、地元にはいろいろと解決しないといけない問題がある。そのあたりを何とかできたら、もう少し垣根が崩れるかなと思う。</p>	<p>町会の加入については、地域特性を踏まえた対策が必要であると考えており、地域の取り組みなどへの周知方法、参加促進を踏まえたうえで地域とのつながりの重要性を啓発してまいります。</p>

ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>近所の商店街は、シャッターのしまった店舗が多かったが、この1年でアジア食材の店や料理店などが増えた。近所のスーパーでも外国籍の方が急増した感じがして、地域でも驚いている。</p> <p>経営課題3でも外国人住民の急増とあるが、区役所が、うまく既存住民との橋渡しをすることで、まちの盛り上がりにつながるのではないかと感じている。</p> <p>地域としても、仲良くしたら、もっと交流の機会が増えてとても楽しいだろうと思っているが、やり方がわからない。</p>	<p>生野区には60か国に近い外国籍住民が暮らしており、お互いの文化や生活を理解、尊重することで、誰もが安心を身近に感じて暮らせるものと考えております。</p> <p>引き続き、多文化の共生できるよう交流の機会や情報の発信を行い、誰もが居場所と持ち場のあるまち、安全安心の担保されたまちを目指して取り組んでまいります。</p>
<p>外国人が多くても、コミュニケーションが取れなかったら、そこに住みたくないという人もでてくる。それでは、生野区は西区や天王寺区のように住みたい住み続けたいまちにはならない。どういう未来像を描いているのかと思っている。</p>	<p>生野区では、生野のまちが子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、そして区民が誇りに思えるまちをめざしております。</p> <p>そのため、生野区の実践を進めていくにあたり、生野のまちが多様性を受け入れ包み込む、懐の深い魅力あるまちであるという認識に立つとともに、それら区の魅力・特色を区の内外に向けて効果的に情報発信し、区に訪れ、住んでもらえるようなシティプロモーションを引き続き行ってまいります。</p>
<p>生野区は障がいのある方がとてもたくさん住んでいる。インクルーシブ教育に生野区の学校は頑張っていて、障がいのある子を持つ親にとってとても魅力的である。障がいのある子が地元の学校に通って過ごしているのは、すごい魅力で、アピールポイントだと思う。運営方針にインクルーシブなまちについても盛り込んでほしい。</p>	<p>生野区では、生野のまちが子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、そして区民が誇りに思えるまちをめざしております。</p> <p>そのため、生野区の実践を進めていくにあたり、生野のまちが多様性を受け入れ包み込む、懐の深い魅力あるまちであるという認識に立つとともに、それら区の魅力・特色を区の内外に向けて効果的に情報発信し、区に訪れ、住んでもらえるようなシティプロモーションを引き続き行ってまいります。</p>